
ペール・ギェント

水乃ヘルギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ペール・ギュント

【Nコード】

N0287A

【作者名】

水乃ヘルギ

【あらすじ】

主人公のペール・ギュントは皇帝を夢見る乱暴者。愛するソルヴェイグに愛想つかされ、イングリッドかつさらって逃げ、途中魔王の娘と結婚するため彼女を捨ててうらまれる、といった話ね。かーっ、ろくでもない男……。とか、いわんでください。コイツおもしろいから。。。。。

前書き

いや、なんとなく書きたかった……。

元祖RPG！　ッて感じですから。

北欧神話をもとに、ノルウェーの作曲家、グリーグがイプセンという作家と組んで作った戯曲です。

一番はカンディード、二番目がボエーム、三番目にこれかな。

ああ、トウランドットとボエームね……。

じつは「ラ・ボエーム」なんです、マルチェロ視点で書いたやつがあるんですな。

トウランドットは、なるべくなら書きたくない作品でしてね。

主役のカラフがまるつきりアホなんでもんな……。
て書くと、オペラファンが怒るかな！？

うーん。演劇としてはやはり、ラ・ボエームとペールとカンディードでしょうよ。

カカンボもマルチェロもペールも好きだし……。

ところでこれ、二年ぶりで書きます。

アイスランド・サガも予定してました。ええ。

しかし読みきるだけの余裕が今はなくてね……。

中里かりんと仮免のお勉強ですのー、残念！　　うう……。

前書き（後書き）

実はジュリアーノのモデルだったりします、ペール君・・・。

ペールの一生

ペール・ギュントの祖父と父親は、先祖が貴族だったのにもかかわらず、金遣いが荒かったため、あつという間に没落してしまった。父親は酒を飲んで暴力を振るい、母親にやつあたりをしてとうとう、家を飛び出した。

そんなペールの野望は、皇帝になって楽をすることであった。

「おっかさん、おっかさん。俺がよう、皇帝になったらよ、病氣も治るぜ」

母親はペールがかわいかったので、何も言わなかった。

あるとき、ペールは友達のイングリッドの結婚式があると聞いて、飛び入り参加した。

しかし誰もペールを呼んでおらず、かわりたくないで白い目で彼を見ていた。

ペールはありったけの酒をがぶ飲みすると、

「てやんでえ、俺様がそんなにうざってえかよ。あつそ、べつにいいがね！」

テーブルをひっくり返したり大騒ぎ。

最近一目惚れしたソルヴェイグにちょっかいを出し、俺と踊れと強要したが、

「乱暴だからね、あなたは、嫌いよ」

つんとおすまし。

無視されたと怒ったペールは、やけくそになり、イングリッドをかつさらって森の中に逃げ込んだ。

「ペール、あたしホントはね、あの金持ちのどら息子、好きじゃなかったんだ。だってペールのほうが、顔いいし、かっこいいもんね」

「だろう、だろう、俺様のほうがお前にふさわしいぜ」

ガハハと大笑い。

ペールのたくましさにイングリッドはどきどき。

ところが、森の中に魔王の娘がさまよっているのを見て、

「ここは彼女に取り入って、魔王の座をいただいてしまおう」

イングリッドをあっさり捨てると、魔王の娘に近づいた。

怒ったイングリッド、

「なんなのよ、おぼえてらっしゃい。あんたを村には入れないから！」

魔王は魔王で、娘がやっと嫁に行くかと大喜び。

ところが配下のトロールはペールが気に入らない。

「魔王様、コイツはキリスト信者だぜ」

トロールに城を追われて逃げ出すペール。

逃げた先は、アラビアの砂漠地帯、灼熱地獄。

そこでペールは絶世の美女、アニトラと出会う。

ペールは拾った盗賊の着物を着て貴族に成りすまして、首領に近づいた。

「ペールといったか、おぬし、気に入ったよ」

首領は酒を勧める。

アニトラはペールを新婚旅行に連れて行けとだまし、根こそぎ財産を盗んで一文無しにしてしまった。

「ああ、そんな」

母親のオーゼも死んで、ペールは身よりなし、金もなしで、結果、山に小屋を建ててすむことにする。

すると、煙突から煙が立ち昇っていた。

中をのぞくと、ソルヴェイグが暖炉に火をくべてペールの帰りを待っていたのだった。

「俺には、お前しかいなかったんだよな。今までごめん」

ソルヴェイグはペールに膝枕をしてやり、歌を歌う。

ペールの死に顔は、安らかであった。

ペールの一生(後書き)

ってことで、ご紹介。

トロールに襲われて逃げ出す臆病者。

北欧系って、こういうのばかりな気がするよ。

「サガ」のエイナルは、ずるい感じだし、フラヴンケルってゴジはいじわるだし。

簡単に殺したり死んだりしすぎ。 汗

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0287a/>

ペール・ギュント

2010年10月9日17時44分発行